

平成 28 年度東北地域災害科学研究集会に参加しました(2016/12/23-24)

テーマ：自然災害

場所：陸前高田コミュニティホール（岩手県陸前高田市）

URL：<http://nds-tohoku.in.arena.ne.jp/>（自然災害研究協議会東北地区部会・日本自然災害学会東北支部）

平成 28 年 12 月 23 日(金)～24 日(土)の 2 日間、陸前高田コミュニティホール（岩手県陸前高田市）において自然災害研究協議会東北地区部会・日本自然災害学会東北支部が主催する『平成 28 年度東北地域災害科学研究集会』が開催され 80 名以上が参加、54 題の口頭発表と 8 題のポスター発表が行われました（うち災害科学国際研究所関係者による発表は 13 題）。本研究集会は、自然災害に関する情報を発信、共有化し、また研究成果を発表する学会で、当研究所情報管理・社会連携部門の佐藤健教授が平成 28 年度・29 年度東北地区部会部会長を、柴山明寛准教授が幹事を務めています。研究集会では、当研究所から人間・社会対応研究部門の奥村誠教授、災害理学研究部門の日野亮太教授、情報管理・社会連携部門の柴山明寛准教授、寄附研究部門の安倍祥助手、リーディング大学院の久利美和講師が研究発表を行いました。

研究集会開催に先立ち、多重防災型まちづくりに取り組み、防潮堤の建設や市街地の嵩上げ、震災遺構を在置した高田松原津波復興祈念公園の整備が進む市内を周り、陸前高田市の復興状況を視察することを目的として「陸前高田市震災遺構および復興状況視察ツアー」（共催：陸前高田市、後援：岩手県、協力：東北地方整備局）が企画され、約 20 名が参加しました。

1 日目には、一般公開の特別講演シンポジウム『東日本大震災からの復興』（共催：陸前高田市、後援：岩手県、協力：東北地方整備局）が開催され、陸前高田市防災局防災課 中村吉雄氏より「震災の経験から学んだ 3 つのマニュアル」～災害に強い安全なまちづくりを目指して～、岩手県復興局復興推進課 鎌田徳幸氏より「東日本大震災津波からの復興の取組状況について」、岩手大学人文社会科学部 五味壮平教授より「震災後の陸前高田市における岩手大学の取組～拡大コミュニティとの関連を中心に～」と題して講演が行われました。また、2 日目には、「平成 28 年度自然災害研究協議会東北地区部会総会および日本自然災害学会東北支部総会」も行われ、戸羽太 陸前高田市長にご臨席賜り、陸前高田市の現状と今後についてお話いただきました。また、今年度の活動報告の他、今後の運営や研究集会の開催方法などについても討議されました。

本研究集会での研究所構成員による発表題目等は、次のとおりです（著者名は発表者（○印）と研究所構成員（下線）のみ記載）。

<口頭発表：第一会場>

○濱田佳那子・有働恵子：我が国におけるヘドニック法を用いた砂浜の経済評価

○栗林司・有働恵子：直線状の海岸砂丘上の風況特性に関する研究

○谷島諒丞・久利美和ら：蔵王火山での無人観測装置の冬季運用試験

○久利美和：東北地方太平洋沖地震後の大学理学分野からの情報発信における企画の趣旨・形態・規模について

<口頭発表：第二会場>

○呉修一・森口周二・佐藤翔輔・有働恵子・地引泰人：近年の東北地方豪雨災害の概要と減災に向けた今後の取り組み

○日野亮太・越村俊一ら：tFISH/EEW - 緊急地震速報で起動する即時津波予測

○都丸英剛・源栄正人：実観測記録に基づく偏心を有する建物の振幅依存振動特性

○佐藤大樹・大野晋・柴山明寛：東日本大震災の振動被害悉皆調査結果に基づく被害率推定の検討

○小野寺凜成・佐藤健：小学校区レベルの地震リスク評価に基づく耐震改修の適正な目標評点と説明ツールに関する研究

○奥村誠：社会工学的視点から見た防災計画の枠組み（てんでんこ避難問題を例に）

○安倍祥・宮城県仙台第一高等学校 SSH 研究部：スーパーサイエンスハイスクールにおけるグループ活動による災害研究の取組と設定テーマの変遷

○柴山明寛：震災アーカイブを用いた防災学習観光ツーリズムの可能性に関する研究

<ポスター発表>

○木村宇心・佐藤健：平常時と災害時の防災行動の要因分析に基づいた大地震に対する住民の災害対応力に関する研究



部会長として挨拶する佐藤健教授



特別講演シンポジウム



戸羽太 陸前高田市市長



戸羽市長と記念撮影（総会）



久利美和講師



日野亮太教授



奥村誠教授



安倍祥助手



柴山明寛准教授



発表会場の様子